



114
A1146



ルニ我日本帝國ハ戰勝ノ結果トシテ驚クハ
事實ノ上ニ現ハセリ軍備ノ皇張ハ論ヲ
俟タズ内政ノ經營ハ著シク歲計ノ増加ヲ要シ外交
ノ對等ハ既ニ條約ノ改正ヲ促シ凡ソ經濟貿易金融
工業等ニ關シ理財ノ調理ハ前途極メテ多事ニ屬
ス况ヤ國立銀行ハ營業滿期ノ慶分ニ由リテ其組
織ヲ變更シ通用貨幣ハ新定法律ノ實施ヲ以テ其本
位ヲ移轉スルノ時機ニ會スルニ於テヤ日本銀行
ハ中央機關ノ任務ニ當リ財政及金融ノ樞軸ナリ今

此時機ニ應シテ當初設立ノ趣旨ニ依リ徐ニ計畫ヲ
立テ一面ニ於テハ金融ノ緩急ヲ整理シ一面ニ於テハ
將來ノ方針ヲ確定セサルヘカラス因ニ茲ニ鄙見ヲ開
陳ス

一 銀行組織ノ事

本邦國立銀行ノ組織ハ米國ノ制度、則リテ折
衷セラレタル者ナルヘシ蓋シ明治ノ初政藩制漸ク
廢セラレテ置縣遍ク行ハレタリト雖氏封建割據
ノ因襲一般ノ財政ハ各市各郡皆分立ノ狀況ヲ
爲シ之ヲ統一シテ以テ相通スルノ道未タ全ク

備ハラス加ルニ政府ニ於テハ當時發行紙幣ノ整
理スヘキアリ華士族世祿ノ廢分スヘキアリテ事
皆目前ノ急ニ迫レリ於是カ國立銀行ノ制ヲ米
國ニ取リテ之ヲ我國ニ行ヒ其功績ヲ得タルト實
ニ著明ナリトス爾來國立銀行ノ各地ニ起ルト百
五十三行ニシテ之ニ次クニ私立銀行ヲ以テシ今日
ハ現ニ各種銀行ヲ併セ其數千四百ノ多キヲ見ル
ニ至レリ其商業工業ニ向ヒテ利益ヲ興フル所ハ
少小ニ非スト雖凡如斯ニ許多ノ小銀行ヲ各地
ニ個々分立セシメハ金融ノ運轉果シテ能ク十分ノ

効益ヲ商界全般ニ供フルヲ得ヘキ歟其諸銀行モ亦果シテ之ニ由リテ實利真益ヲ永遠ニ享有スルヲ得ヘキ歟是レ今日ニ於テ宜ク考慮スヘキノ要點ナリ

原来米國ニ行ハレタル國立州立私立ノ分立制ニ當時米國ノ情勢ヨリ来レル者ナルヘシ我國ニ於ケルモ亦實ニ然リトス凡ソ國情ニ從ヒテ事ヲ處スルニ際シテハ利弊相半スルモ尚之ヲ舉行スルノ必要ニ迫ラル、事アリ我國之銀行ノ如キ當初ニ在リテハ最便ノ唯一手段タリシト雖モ然レモ創立

以來既ニ二十有餘年ノ星霜ヲ閱シ國情モ亦進遷シタルノ今日ニ在リテハ更ニ方針ヲ定メテ俱ニ進遷スルノ計畫ヲ立テサルヘカラス熟シ歐米諸國ニ於テ銀行ノ興廢スル形跡ヲ觀ルニ破産鎖店ノ陸續トシテ起ルハ米國ニ若クハナシ是他ナシ其銀行ハ皆國立州立私立ノ分立制ナルヲ以テ各自孤立シテ業ヲ營ミ互ニ關聯スル所ナキカ故ニ一朝市場ニ恐慌ヲ来タスノ場合ニ臨ミテハ金融ノ上ニ應援救助ヲ求ムルニ地ナク餘金ヲ有スル者ト雖モ他ノ急ニ應スルコトヲ得スシテ空エツ

其倒ル、ヲ傍觀スル、丁恰モ秦人カ越人ノ肥瘠
ニ於ケルト一般ナルハ分立制ノ然ラシムル所ニ
シテ實ニ不得止ノ結果ナリトス之ニ反シテ蘇格蘭
ノ銀行ハ專ラ支店制ヲ採リテ之ヲ實行シ其本
店ハ僅々數行ニシテ各自皆許多ノ支店ヲ全國
要地ニ配置シテ業務ヲ營ノルカ故ニ本支間ニ
於テ有無相通ニ緩急相濟ヒ金融上ニ於テ曾テ
阻遏梗塞ヲ見ル所ナシ現ニ一朝市場ノ恐慌ニ
會フモ倉黃急迫曾テ救援ヲ中央銀行ニ乞ヒ
タル事ナシト云ヘルヲ以テ之ヲ證スヘシ是レ其支店

制ノ諸國ニ冠絶スル所以ニ非スヤ
夫レ一箇ノ銀行ヲ設立スルニ當リテハ其資本ノ
多寡ヲ問ハス如何ナル小銀行タリ且其營業ヲ維
持スルニ足ルノ準備ヲ置キ其他獨立ニ必須ノ經營
ヲ爲シ平常ニ不虞ニ備ヘサルヘカラス故ニ分立制
ハ其平素無事ノ時ニ在リテハ互ニ相濟互立ノ便
宜ヲ俱ニスルカ如キ觀アリト雖且一旦市場ニ事
アルノ日ニ會ハ個々各々戒心ヲ懷キテ相警言ノ
專ラ自個ノ安全ヲ圖リ資金ノ回收ヲ是レ勉メ偶
々我ニ餘裕アルモ敢テ他ニ供スルヲ爲サス我ニ

足ラサル者ハ復タ他ニ仰クヲ得スシテ市場ノ融通
ハ益々梗塞シテ終ニ平地ニ波瀾ヲ生スルニ至ル之ヲ
全局面ヨリ通觀スレハ經濟上ノ封建割據ニ異ナ
ラス如何ソ共濟融通ノ望ヲ屬スルヲ得ニヤ之ヲ要スル
ニ土地ノ便利ニ因リ可成數多ノ小銀行ヲ一打シ集メ
テ大銀行ト爲シ便宜其支店ヲ要地ニ布置セシメテ
其資金ハ專ラ之ヲ公衆ノ預金ニ賴ラシメ漸次日
本銀行ニ依賴スルノ心ヲ薄クシ以テ圓轉自在在彼
是相濟フノ道ヲ實踐スルニ至リテ初テ十分ノ効益
アルヲ得ヘキナリ然レモ換國ノ支店制斯ク完全ナリト

雖レ苟モ國情之ヲ許ルニ時機之ヲ催スニ非サルヨリハ
素ヨリ遽ニ之ヲ我國ニ行フヘカラサルハ言ヲ俟タス
然ルニ現今ノ國情ハ正ニ大銀行ノ設立ヲ要シ而シテ
時機ハ方ニ國立銀行營業滿期シテ之ヲ處分スル
ノ際ニ臨メリ此好時機ニ乘シ各地方ノ便宜ニ從ヒ
勉メテ彼ノ個々分立セル者ヲ勸誘シテ合同セシメテ
ハ今日ノ分立制ハ漸次進遷シテ支店制ニ移ルヲ得
ヘシ此方針ハ實ニ前途ニ向ヒテ國家理財ノ得失
ノ分ル、所ニシテ深ク政府ノ注意ヲ望マサル可ラス

二日本銀行機關活動ノ事

日本銀行ハ中央銀行ニシテ即チ諸銀行ノ銀行タリ
資本ノ流通ヲ圓融シ商界ノ金利ヲ平準シテ一般ノ
便益ヲ利スルヲ其主眼ニシテ今日ニ至ルマテ之ヲ實
行シツ、アル者ナリ然ルニ日本銀行カ諸銀行トノ
ニ取引ヲナシ散テ一個人ニ取引ヲ爲サ、ルヲ利シテ
諸銀行多クハ日本銀行ヨリ引出シタル資本ヲ一個
人ニ向ヒテハ割合ヨリ高利ニ貸付ケ其差金ノ收益ノ
ミヲ以テ目的トスル者比々皆然リサレハ日本銀行
カ銳意シテ金利ヲ低下スト雖比多クハ徒ラニ諸銀
行ノ利得ヲ助ケ長スルノミニシテ其惠ヲ一般商界

ニ洽子カラシムルノ効果ヲ見ル丁鮮ナシ現ニ日本銀
行ノ日歩ト諸銀行ノ日歩トヲ比較シテ幾何ノ差
アルカヲ驗セハ判然疑ヲ容ル、所ナシ故ニ日本銀行
ハ今後市場ノ情勢ヲ察シテ自由ニ本行ノ利率
ヲ昂低シ以テ市場日歩トノ間ニ甚シキ懸隔ナカラシ
ムルヲ期スヘシ

更ニ一歩ヲ進メテ其甚シキ者ヲ舉示センニ近時私
立銀行相接ニ起ルヤ其中ニハ已レ自カラ他ノ事業
ヲ營ミ其融通上單ニ日本銀行ニ向ヒテ直接ノ取
引ヲ開クカ爲メニ設立スル者アリ是等ノ銀行ハ

其名ノミ銀行ニシテ其實ハ銀行ノ名ヲ假リテ以テ
已レカ融通ヲ謀ルニ過キサルナリ是豈銀行ノ趣旨ナ
ランヤ如是実況ナルカ故ニ日本銀行ハ現時ノ状勢
ニシテ金利平準ノ効益ヲ充分ニ商界ニ及ホサンコトハ
得テ望ムヘカラス故ニ今後ハ日本銀行自ラ進ミ
テ商界ニ近ツキ信用アル個人ニ對シテハ其依頼ニ
應ニ直接ノ取引ヲ得セシムルヲ以テ得策ナリト
ス

次ニ日本銀行ハ現行ノ擔保貸附ヲ廢セサルヘカ
ラス抑々日本銀行ハ會社株券ヲ抵當トシテ貸

金ヲ為スハ定款ノ許ルガ、ル所タリ然ルニ往年金
融梗塞シテ諸銀行其流通ニ苦ミタル時ニ際シ一時
救急ノ權道ヨリシテ日本銀行ハ約束手形仕
拂確實ヲ擔保スルカ為メ其々ノ株券ヲ
附スル者ハ銀行ノ依頼ニ應ニシテ其手形ヲ引受
ルコト為シテ焦眉ノ急ニ應ニ爾來因襲シ
テ今日ニ至レリ然レ其所謂擔保ハ其實抵當ニ
異ナル所ナクシテ其手形モ亦真正ノ商業手形ニ
非ス夫レ商業手形ハ其物正シク貨幣ト性質ヲ
同クシ期日ニ到レハ輒チ直ニ正金ニ換ルヘキ者タルニ

今ヤ擔保附ノ手形ハ此性質ヲ有セスシテ實ニ融
通手形タルニ過キサルナリ然ルヲ尚之ヲ因襲セバ真
正ノ商業手形ノ通用ヲ獎勵スルニ妨碍アルノミナ
ラス却テ彼ノ忌避スヘキ融通手形ノ使用ヲ助ケ長
スルノ恐アリ且夫現時ノ擔保株券ハ其種類ニ制
限アルヲ以テ他ニ現ニ之ニ勝ルノ信用アル株券アル
モ擔保ヲラサルノ故ヲ以テ市場ニ其影響ヲ蒙ル
往々コレナシトセス是一方ニハ偏頗ヲ株式會社ニ與
ヘ一方ニハ實際ノ信用如何ヲ顧ミサルノ批難ヲ招
ク所以ナリ故ニ日本銀行ハ断然之ヲ廢止スヘキナリ然

レ數年ノ久シキ之カ習慣ヲ爲シタルノ今日突然之ヲ
廢止セハ忽チ商業會社ヲシテ困難ニ陥ラシムル虞
アルヲ以テ不得止日本銀行ハ政府ニ請ヒ定款ヲ改正
シテ公然普通ノ抵當貸附ヲ爲シ以テ名實相通ス
スルヲ勉ムヘシ而シテ日本銀行ハ抵當貸附ヲ爲スノ
日ニ至ルモ其抵當株券ノ種類ハ實地信用スヘキ株
式ヲ擇フヘキナリ

然レ抵當貸附ハ本来日本銀行ノ主趣ニ非サルカ故ニ
專ラ確實ナル商業手形ハ之ヲ低利ニ引受テ却テ他
ノ抵當貸附ニ向ヒテ通常ノ利子ヲ附シ以テ商業

手形ハ抵當貸附金ヨリモ低利融通ヲ享受スル事
ヲ會得セシメ益々其使用ヲ獎勵シテ利便ニ賴ラシ
メントス

三國庫金運轉ノ事

歐洲中央銀行ニ於テハ國庫金ヲ當座預金トシテ
運轉スル者多シ抑々我國ニ於ケル金融ハ納税期
ニ際シ一時金利ノ騰貴ヲ來タシ又國庫金檢査
期ニ於テハ一時資金ノ需要ヲ生スルヲ常トス今此
弊ヲ避ケンテ欲セハ國庫金ヲ本行本支店及代理
店ノ當座預金トナシ其運轉ニ依リ以テ納税ニ生スル

通貨ノ欠乏ヲ補フヲ可トス然レ全國ノ本行代理店
ヲシテ盡ク國庫金ヲ運轉セシムルハ時機未タ熟セ
サル者アリ故ニ先ツ本行本支店ニ限り差當リ國庫金
ヲ當座預金トアレテ運轉セシメ漸次信用厚キ代理
銀行ヲ撰ミテ之ヲ運轉セシムルヲトナサハ當ニ金融ヲ
圓滑ナラシムルノミナラス亦支店制度ヲ獎勵スルノ益ア
ルヘシ何トナレハ各地方ノ小銀行ハ國庫金運轉ノ許
可ヲ得ンカ爲メニ或ハ合同シ或ハ他ノ有力ナル銀行
ノ支店トナリテ其基礎ヲ鞏固ナラシムルヲカトムハ
ケレハナリ

四 金貨吸收ノ事

金貨本位制ハ已ニ政府カ制定セラレタルノ新法ナリ
之ヲ實施スルノ日ニ於テハ我正貨準備ヲシテ常ニ不
足ナカラシムルヲ最モ緊要ナリトス抑々正貨準備
備ノ増減ハ職トシテ外國貿易輸出入ノ差引如何ニ
由ル其貿易常ニ輸入超過シテ我ニ不利ナランカ本
位ノ金タルト銀タルト向ハス正貨ハ此差引ヲ償ハ
シカ為メニ國外ニ流出スルハ自然ノ理勢ナレハ人爲
ヲ以テ之ヲ阻遏スヘカラサルヤ昭然タリ現時我國ハ戰
勝國膨脹ノ結果トシテ軍備自王張ノ為メニ事業興起

ノ為メニ其他種々ノ事由ノ為メニ諸般物品ノ輸入ヲ
外國ニ仰ク者著シク増加シ迨ニ輸出ヲ超過スルノ實
況タリ此時ニ至リテ日本銀行カ何等ノ働ヲ為スモ自
然ノ潮勢ニ逆行スルヲ能ハサルハ言フ費サスシテ知
ルヘキナリ故ニ政府ニ於テ專ラ此ニ注意打算シテ
是カ防止ノ策ヲ講セラル。ヲ必要トス軍備ニ於テモ
公私ノ起業ニ於テモ苟モ事ノ成シ得ヘキ限リハ
其物品ヲ外國ヨリ購入スル事ヲ避ケ其事業ノ稍々
不急ニ屬スル者ハ著手ノ程度ヲ節シ益々有益ノ
事業ヲ發達シテ生産製作ヲ勉メ内ニ向ヒテハ大ニ

輸出ヲ獎勵シ外ニ向ヒテハ痛ク輸入ヲ節減セシムヘシ
是レ今日ノ急務ニシテ實ニ政府ノ最モ勉ムヘキ任務
ナルヘシ

五 兌換券伸縮ノ事

現時説ヲ爲ス者アリ曰ク兌換券發行高ハ一億五千
萬ヲ限度トスヘシ曰ク貳億五千萬マテヲ必須トス
ヘシト其言フ所皆一定セス夫レ兌換券ノ發行ハ需用
ニ應ヒテ其供給ヲ異ニスルヲ以テ初ヨリシテ豫メ其
發行ノ高ヲ制限スルヲ得ヘカラス苟モ市場一般ノ
需用緊切ナルノ場合ニ於テハ之ニ應スルノ程度マテハ

制限外ニ出ルモ發行ヲ要スルノ機アルヘシ然リト雖モ
日本銀行ハ後ニ趨勢ニノミ放任スルニ非ス市場ノ金
融舒緩ナレハ兌換券ヲ回收シ金融繁忙ナレハ高
利ヲ引上ケテ以テ其勢ニ應ス要スル所ハ金利ノ高
低ヲ以テ兌換券ノ伸縮ヲ操縦スルニ在リ若シ之レカ
趨勢ニノミ放任シ或ハ一時ノ人爲便法ヲ以テ目前ヲ
彌縫セハ其害終ニ計ルヘカラス之レヲ阿片ヲ用フルニ
譬フ初メハ害ナキカ如シト雖モ之ヲ用フルト久シケ
レハ其分量亦漸次増加シ終ニ全身其毒ニ中リ名
醫モ之ヲ如何トモスル能ハサルニ至ル慎マサルヘケン

ヤ故ニ兌換券ノ發行ハ需用供給自然ノ道理ニ基
クト雖モ其伸縮ハ金利高低ノ活用ヲ以テ之ヲ操縱
スヘキナリ

六 海外ニ對スル方針ノ事

當時本邦ニテ外國貿易ニ對スル金融機關ハ獨リ
横濱正金銀行アルニ我日本銀行ハ同行ト特約
ヲ結ビテ外國為替手形再割引ノ便ヲ開クト已ニ年
アリ蓋シ歐洲諸國ノ如ク土壤相接シ商業相均シキ
時ハ隣國ノ有力ナル銀行ト「コルレスポンドンズ」ヲ開キテ
以テ正貨ヲ吸收スルヲ得ヘシト雖モ我國未タ其域

ニ達セサルヲ以テ今後益々正金銀行ヲ利用シテ以テ
輸出ヲ獎勵シ正貨ヲ吸收セシムルノ方針ニ出テサルハ
カラス而シテ金貨制度ヲ實施セハ正金銀行各支
店ノ營業方針ニ多少ノ變改ヲ加フルヲ要スルハ勿
論貿易上ノ必要ニ依リ新ニ支店ヲ増減セシムル
モ亦之アルヘシ而シテ正金銀行ノ外他ノ銀行ニシテ
海外ニ支店ヲ開設シ若クハ「コルレスポンドンズ」ヲ開
始シテ為替事業ニ從事スル者アルハ其事業ノ
確實ニシテ且貿易上必要ナルヲ認ムルニ於テハ本行
ハ之ニ向ヒテ相當ノ便利ヲ供フルハ指置ニ出テサルハ

